

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年2月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 交流会

J Aめぐみの中濃農林事務所の共催で、1月30日に新規就農者と担い手リーダー、就農応援隊の交流会を開催し、30名が参加した。

4年振りの対面での開催となり、まず、この4年間の新規就農者、新規雇用就農者、新規農業参入法人と研修生に自己紹介および将来の農業経営の目標などを話していただいた。会の後半は、6～7名の小グループに分かれて意見交換を行い、新規就農者等が抱えている課題等について担い手リーダー等からアドバイスをいただくなど、活発な意見交換が行われた。

農業普及課は、今後も関係機関と連携して、新規就農者の育成と営農定着に向けて、重点的に取り組んでいく。
(地域支援係)



【意見交換会】

■新規就農者・研修生 J Aめぐみの集合研修

J Aめぐみの管内の研修拠点等の研修生は、主に実技中心の実践研修をしており、それを補完する講義として集合研修が開催されている。

2月2日の最終講義には22名の受講生が出席し、「先輩農家からの話」として、可茂地区の指導農業士、女性農業経営アドバイザーから、自身の就農の経緯や経営で大切にしていることなど、体験に基づく貴重な話をしていただいた。その後、修了式が行われ、全15回のうち10回以上出席者18名(中濃管内2名)に修了証が授与された。

農業普及課では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、来年度も引き続き集合研修の開催を支援していく。
(地域支援係)



【修了式】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 共進会地方審査

中濃いちご生産組合では、岐阜県いちご共進会に推薦する圃場を選定するため関係者による地方審査を実施した。

組合から推薦のあった2圃場について、共進会の審査規定に基づき、いちごの生育及び管理技術と経営内容を審査した。

生育状況や管理技術に大きな減点はなかったが、GAPの実践や天敵の導入ができていなかったため、経営審査の点数が低くなった。

農業普及課では、次年度以降の天敵導入やぎふ清流GAPの取り組みに備えて支援を行っている。
(地域支援係)



【圃場審査】

■夏秋なす 三者面談

2月8日・9日に、JAめぐみの中濃夏秋茄子生産出荷組合の個別面談が開催され、JAめぐみの担当者、農業普及課が、17名の生産者と個別に三者面談を行った。本年度の栽培の振り返りや次年度の栽培計画、目標について話した。

農業普及課では、JAから提供された個人別の出荷データ、栽培・防除日誌を基に、収穫量、施肥量等の実績資料を生産者ごとに作成し、説明した。また、土壌診断データから次作圃場の処方せんをとりまとめ、診断結果の説明を行った。

生産者からは、病虫害防除についての質問や、次年度の取り組みへの意気込み等を聞くことができ、次作への意欲の高さを感じられた。今後も生産者の反収の向上に向けて生産出荷組合の支援を続けていく。



【三者面談】

(地域支援係)

■円空さといも 農薬研修会

円空さといも生産組合が、2月2日に農薬の適正使用研修会を開催し、組合員37名が出席した。

農業普及課が講師となり、農薬の適正使用について、農薬使用前のラベルの確認や防除器具の洗浄などの基本的な対策の徹底を周知し、具体的な農薬使用方法について説明した。

農業普及課では、引き続き高品質な円空さといも生産を支援するとともに、農薬の適正使用についても指導していく。

(地域支援係)



【チェックシート】